年度末報告書（実行団体）

提　出　日　：2022 年 4 月 4 日

● 事　業　名　：　こども食堂サポート機能設置事業

● 資金分配団体　：　一般社団法人　全国食支援活動協力会

● 実 行 団 体　：　一般社団法人　こどもの居場所サポートおおさか

● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　☐無

①　実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
0101.「こども食堂等居場所」を支える企業（ヒト・モノ・カネ等）が集まる	①支援をしてもらった「こども食堂等居場所」の数 ②支援をした企業等の数 ③支援をつなぐハブの数	①団体の数や割合や頻度が 1 年目より 3 年目の方が増えている ②1 年目より 3 年目の方が増えている ③1 年目より 3 年目の方が増えている	2023 年 3 月	①147 団体 ②支援企業 41、個人 4 ② 7	1

0102.地域に「こども食堂等居場所」を運営したいという人（組織・機関等）が増える	①新しくできた「こども食堂等居場所」の数 ②こどもへの食提供を新しく始めた居場所の数	①②1 年目よりも増加し、今後も減少しない見通しがある	2023 年 3 月	① ②8	2
0103.新型コロナウイルス感染拡大収束後もこども食堂等居場所が安定して活動できるようになる	①「こども食堂等居場所」が長く続けられている ②「こども食堂等居場所」が支援地域内に十分な数存在している ③「こども食堂等居場所」の運営者が気持ちよく運営している	①活動年数や、中止した団体数の割合を他地域と比較する ②1 年目より 3 年目の方が活動団体数が増えている ③気持ちよく活動しているという回答が多い	2022 年 3 月	①5 年以上約 29%、3～5 年約 32%、1～3 年約 28%、1 年未満約 11%（2021 年 9 月アンケート N＝72） ②食堂継続約 46%、弁当配食約 55%、物資提供約 32%、休止約 9%（2021 年 12 月ヒアリング N＝57） ③2021 年 9 月アンケート（N＝72）より ・「今後も活動を継続する意向がありますか？」という問いに対して「ずっと続けていきたい」「続けていきたい」と約 97%が回答している。 ・2020 年度の運営費用の持ち出しの割合について、5 割以上約 13%、3～5 割約 8%、1～3 割 25%、1 割未満約 18%、なし約 29%、無回答約 7%となっている。 ・2020 年度の運営費用のうち、助成金の	2

				割合が 5 割以上約 46%、3～5 割約 14%、1～3 割 10%、1 割未満約 6%、なし約 17%、無回答約 8%となっている。 ・多くの団体が助成金により運営費用をまかなっている状況である。 ・回答者の約 68%が法人格を有しておらず（任意団体・個人）、約 71%は組織経営の基幹となるような事業は実施していない。 ○2021 年 12 月ヒアリング（N＝57）より ・「食数が増えてこれ以上弁当を作る人手がない」という声があった。 ・貧困対策、フードロス対策として物資が集まってくるのはありがたいと思いつつ、活動の主体性が喪われていないか、と危惧する声も聞かれた。	
0104.こども食堂等居場所が生鮮食品を含む常温・冷蔵・冷凍の多様な食材の寄付を受けられるようになる	生鮮食品を含む冷凍・冷蔵品の寄贈食品・ロス食品の利活用実績として、 ①マッチングの物量 ②提供団体数（受け渡す側・受け取る側）の変	①大阪市内 6 か所の冷凍・冷蔵庫設置場所を活用し、冷凍・冷蔵食品の寄贈と提供を継続的に行うことができる ②身近な所に提供場所を設置するとともに、希望	2021 年 10 月	①約 350t ・冷凍冷蔵庫設置場所について、サポートセンターからの食材を活用しているところ、独自の食材も活用しているところ、十分に活用できていないところがある。中継拠点となる各地のネットワーク団体が集まっての会合も行ったが、引き続き検討が	1

	化 ③こども食堂等居場所への食材提供頻度	団体には車で直接配送することで、必要な団体に必要なときに届く体制ができる ③提供体制を整え、企業等への寄贈の呼びかけを増やすことで、活動団体が必要な提供を受けることができ、食材費の持ち出しが低減する		必要である。 ②提供団体 37，個人 3、受け取り 67 団体 ・必要な団体には、随時車で配送している。 ③143 回／18 か月、のべ 628 回／18 か月 ・企業等との交渉が増加している。支援企業 37、個人 4、支援交渉中企業 4。紹介も増えてきている。	
0201.学校が「こども食堂等居場所」のことを伝えてくれるようになる	学校と「こども食堂等居場所」の連携がうまくいったエピソード	運営者と学校関係者がこどものことを話し合える場がある	2023 年 3 月	○「学校が協力的になった」と回答した団体が 2 割弱（2021 年 9 月アンケート N＝72） ・約 18%が「小学校」に相談していると回答 ・約 23%が「住民や学校への説明の協力」を望んでいると回答 ○2021 年 12 月ヒアリング（N＝57）より ・休校時に、子どもの様子を見るために学校の教員がお弁当配食の場にきたところもあり、学校との情報共有がスムーズにいくようになったという回答もあった。 ・不登校のこどもに弁当の配達をするよ	2

				うになって、こどもがドアを開けてくれるようになったことで、保護者の警戒心も軽減したようだ。家庭訪問がスムーズになり、先生が保護者と話しやすくなったと喜んでいた。この活動をきかっけに、学校とのつながりができた。気持ちがほぐれたのか、学校に行けるようになった子がいたし、近所で会ったときに子どもからあいさつをしてくれるようになった。 ・弁当はこどもや子育て家庭につながるツールとして捉えている。スクールソーシャルワーカーなどと、学校のケース会議に入ったり、月１回行政ともケース会議をしたりしている。訪問支援の必要を感じているので、弁当、パントリーともすべて配達をしている。	
0202.学校以外の様々なところが「こども食堂等居場所」のことを伝えてくれるようになる	学校以外の様々なところと「こども食堂等居場所」の連携がうまくいったエピソード	連携がうまくいったエピソードがたくさん集まる	2023 年 3 月	〇約 46%の団体がつながりや交流機会が向上したと回答（2021 年 9 月アンケート N＝72） 〇2021 年 12 月ヒアリング（N＝57）より ・役所からの紹介で物資提供の配達をする個別支援は１９家庭にまで増えた。 ・コロナ禍で役所との連携が進んだが、ボ	2

				ランティアの力量を越えた個別支援が増え、活動量の増加も加わって負担に感じている、という団体もあった。	
0203.「こども食堂等居場所」が望む社会資源（商店会や児童館，学校，学童，こどもクラブなど）とつながることができる	「こども食堂等居場所」と望む社会資源との連携がうまくいったエピソード	連携がうまくいったエピソードがたくさん集まる	2023 年 3 月	○2021 年 9 月アンケート（N＝72）より ・約 46%の団体がつながりや交流機会が向上したと回答。そのうち約半数が、サポートセンターの影響があったと回答している。サポートセンターからの食材提供が媒介となって、地域とのつながりづくりの契機となっていることがうかがわれる。 ・自由記述：役所の子育て支援からの問い合わせ、紹介が多くなり、逼迫している家庭への支援が広がった	
0204.地域住民が「こども食堂等居場所」を理解し，協力的になる	「こども食堂等居場所」と地域住民との連携がうまくいったエピソード	連携がうまくいったエピソードがたくさん集まる	2023 年 3 月	○2021 年 6 月大阪市社会福祉協議会調査（N=104）より ・約 32%が「町会等の地域団体」に相談していると回答 ・約 16%が「民生・児童委員」に相談していると回答 ・約 15%が「外部には相談せず、自団体で解決」と回答 ・（再掲）約 23%が「住民や学校への説明	

				の協力」を望んでいると回答 〇2021 年 6 月大阪市社会福祉協議会調査（N=321＝地域団体）より ・こどもの居場所活動について約 60%が必要だと思うと回答 ・約 36%が「周知協力」、約 21%が「人の協力」、約 15%が「場所の提供」、約 10%が「寄付の協力」ができると回答 ・約 13%が「相談されたことがない」と回答	
0301.「こども食堂等居場所」の活動者が十分なスキルを有している（ここでのスキルとは，こどもの話に耳を傾けるや色々な気づきを得られる，など様々）	①スキルのある or ない活動者がいるかどうか	①参加しているこどものことについて、話し合える場がある	2023 年 3 月	〇2021 年 6 月大阪市社会福祉協議会調査（N=104）より ・約 30%が「気になるこどもや家庭の支援」に困っていると回答 ・約 74%が「区社会福祉協議会」、約 42%が「区役所」に相談していると回答 〇2021 年 12 月ヒアリング（N＝57）より 「子どもに弁当を手渡すだけで会話をする時間が減ったので、こどもの様子を知ることができなくなった」など、以前より関わりが減少したと捉えている団体がある一方で、「こどもの親がお弁当を取りに来ることもあり、子どもだけでなく家庭との	

				繋がりができた」など、関わりが深くなったと捉えている団体もあった。 ・ひとり親ファミリー限定の食堂を開催して、当事者同士のつながりをサポートしている。どうしたらひとり親家庭の親と子を元気にできるかを考えながら接し、いいところを引き出しながら夢や目標を与えるような取り組みをしている。一方、どうしたの？と日常的な声かけをして、気にかけている姿勢を示すことが大事だと思う、との回答。 ・（再掲）弁当はこどもや子育て家庭につながるツールとして捉えている。スクールソーシャルワーカーなどと、学校のケース会議に入ったり、月１回行政ともケース会議をしたりしている。訪問支援の必要を感じているので、弁当、パントリーともすべて配達をしている。	
0302.地域に多様な「こども食堂等居場所」ができる（色々な人が参加できるような）	①各「こども食堂等居場所」の強み ②区内の「こども食堂等居場所」でいい連携	①②地域内の「こども食堂等居場所」が互いの強みを共有し、連携できる場がある	2023 年 3 月	・定期的に情報交換を行う行政区単位のネットワーク数 12 か所 ・区内のネットワーク内で、大阪サポセンや市社協からの食材提供の際に、他団体の分も配達するなどお互い助け合っている。	

	をとることができているか			・支援が必要な家庭については区内の他団体への紹介をしたり情報共有を行っている。 ○2021 年 6 月大阪市社会福祉協議会調査（N=104）より ・約 23%が「近隣のこどもの居場所活動団体」に相談すると回答	
0303.「こども食堂等居場所」が広い意味での「食育」のことも理解し、楽しい食卓を囲むきっかけをつくることができる	関わっているこどもたちの経年の変化のエピソードを集める	コロナ禍以後もそういった食の機会が提供されているエピソードがある	2023 年 3 月	○2021 年 9 月アンケート（N＝72）より抜粋 ・「今まで以上に食堂と参加者の子どもたちとの繋がりが親密になったと思う。」 ○オンラインによる料理教室（テレクック）に参画（2021 年 6 月小中学生 6 名参加：こども食堂 A、9 月幼児小中学生 5 名参加：こども食堂 B）	

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況

A：変更項目 ☐変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3. 活動に関する報告
6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
・感染対策に取り組みながら、各団体ができることを工夫しながら活動していることについて、物資提供を通じて、各団体の活動を応援しているというメッセージを伝えたこと。各団体の活動状況や工夫を、様々な団体に紹介することで、それぞれの団体がエンパワメントされ合うこと。

③ 広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　　☐広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） ・毎日新聞　2021 年 8 月 9 日　朝刊　社会　大阪・徳島 https://mainichi.jp/articles/20210809/k00/00m/040/115000c 「コロナ禍で思わぬ「追い風」　捨てられる野菜で子ども食堂を支援」 2.広報制作物等 ・通信

3.報告書等 ・「2021 年度子ども食堂団体ヒアリング調査報告書　コロナ２年、模索する食堂～子どもの居場所づくりはいま～」 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） ・「企業とこどもの居場所　交流会」2022/2/14　大阪市社会福祉協議会　大阪市ボランティア・市民活動センターと共催

④規程類の整備に関する報告

1.　事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑完了　　☐整備中
2.　整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
☑全て公開した　☐一部未公開　☐未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：
3.　変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1.　社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
2.　内部通報制度は整備されていますか。

☑はい　　☐いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☐内部に窓口を設置　　☐外部に窓口を設置　　☑ JANPIA の窓口を利用
3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
☑内部監査を実施　　☐外部監査を実施　　☐実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）